

「令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果について」

【根木名小学校】

令和4年4月19日（火）に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本市の小学校の結果についてお知らせします。

1 児童が受けた調査について

「国語」、「算数」、「理科」「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

教科に関する調査

- (1) ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/22chousa/22chousa.htm>

2 本市児童の調査結果

本市児童の調査結果及び分析は以下のとおりです。

(1) 教科の正答率について (※ 全国公立小学校の平均正答率 (以下全国平均) との比較)

国語	学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題	C
算数	学習指導要領における、「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	B
理科	学習指導要領に示された目標及び内容に基づき、「A 物質・エネルギー」、「B 生命・地球」の二つの内容区分からバランスよく出題	C

☆ 全国平均正答率との比較について

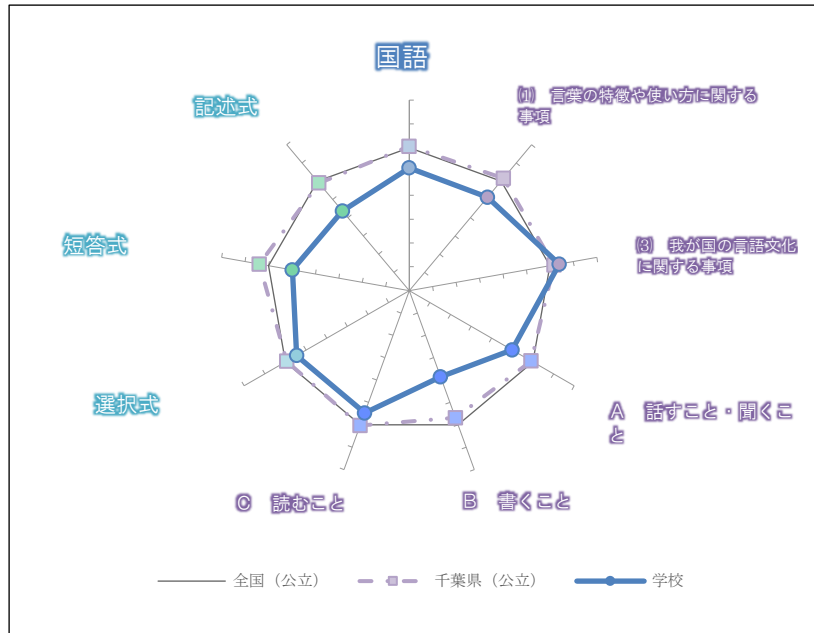
A：+5.0%より上回っている場合「良好」

B：+5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C：-5.0%より下回っている場合「要改善」

(2) 教科ごとの分析

国語



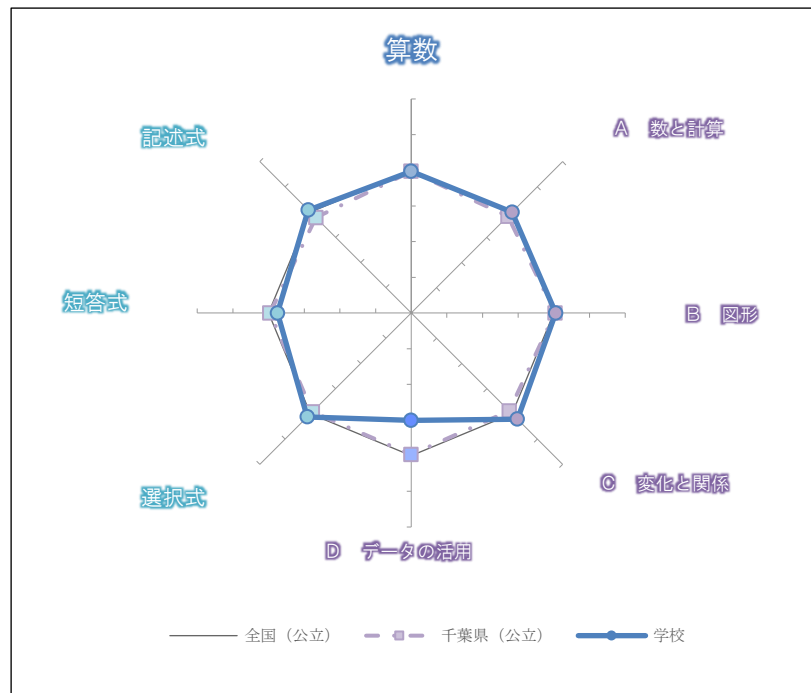
【特徴と現状】

- 全体的に、全国と比較して正答率が下回っています。
- 「書くこと」の領域において、正答率が大きく下がっています。
- 「記述式」の問題形式において、正答率が大きく下がっています。
- 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることに課題があります。

【改善方策等】

- 内容や表現に一貫性があるか、目的に照らして適切な構成や記述になっているか、事実と感想、意見とが区別して書かれているか、引用の仕方、図表やグラフの使い方は適切かといったことなどを観点として、文や文章を整えて書く力の向上を目指します。
- 推敲で取り上げた観点を含め、様々な観点で互いの書いた文章を読み合い、感想やよいところを見つけることができるようにすることを大切にしていきます。

算 数



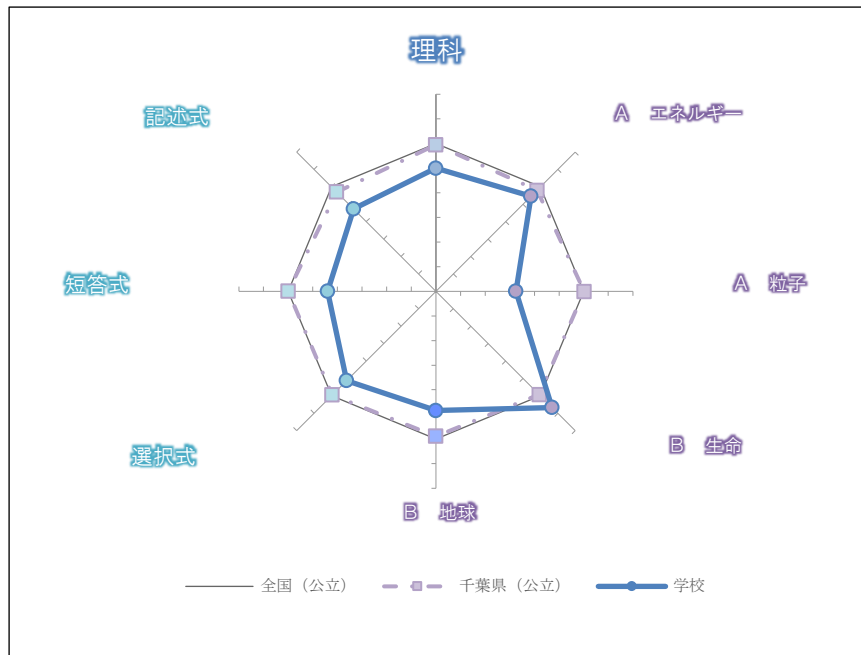
【特徴と現状】

- 全体的に、全国平均と比較して正答率がほぼ同じです。
- 「データ活用」の領域において、正答率が下回っています。
- 示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解することに課題があります。

【改善方策等】

- 日常の具体的な場面に対応させながら割合について理解したり、図や式などを用いて基準量と比較量の関係を表したりすることができるように指導してまいります。また、伴って変わる二つの数量の間に比例の関係があることを見だし、その比例関係を用いて、未知の数量を求めることができるように指導してまいります。
- 問題場面の数量関係に着目し、基準量、比較量、割合の関係や、伴って変わる二つの数量関係について考察して、数学的に表現・処理する力の向上を目指します。

理 科



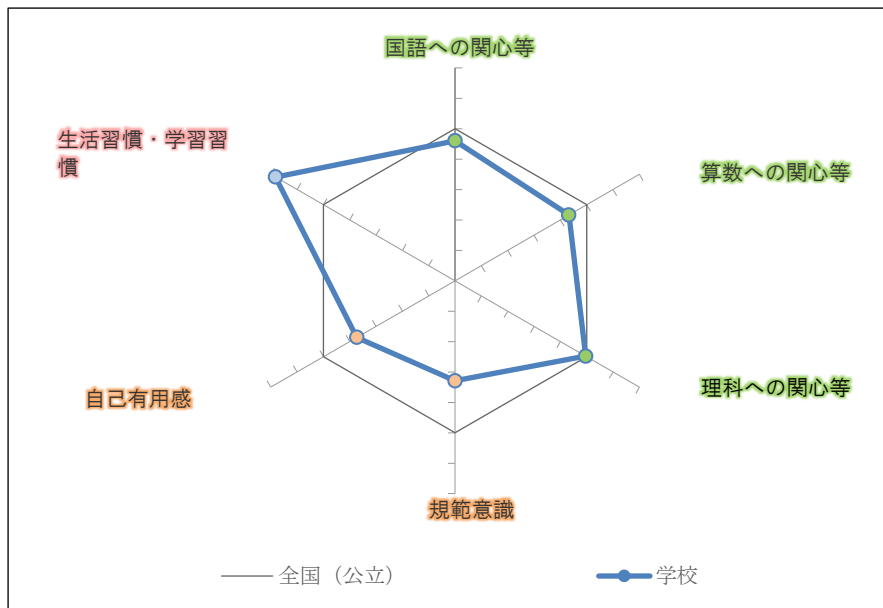
【特徴と現状】

- 全体的に、全国と比較して正答率が下回っています。
- 「粒子」の領域において、正答率が大きく下がっています。
- 「短答式」の問題形式において、正答率が大きく下がっています。
- 観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことに課題があります。
- 実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述することに課題があります。
- 自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述することに課題があります。

【改善方策等】

- 資料から結論を導き出すために必要な数量、変化の大きさなどの特徴を見つけ、自分の考えをもち、それを表現し、他者と意見交換することの重要性について意識して授業改善をしております。
- 問題に対する予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、観察、実験などを行った結果を事実として分析して、解釈したことを、結論の根拠として表現できるようにすることの重要性について意識して授業改善をしております。
- 児童同士が話し合う中で、比較の考え方を働かせながら、自分や他者の気付きを基に差異点や共通点を捉え、新たな問題を見いだしていくような場面を設定しております。観察、実験などの方法を具体的に見通そうとすることを価値付けることの重要性について意識して授業改善に努めてまいります。

(3) 児童質問紙の結果及び分析



【特徴と現状】

- 教科への関心については、「国語科」「理科」ともに全国平均をやや下回っています。学習内容は分かっていると答えていますが、理解して身に付けることに課題があります。
- 「規範意識」については、全国平均を下回っています。普段の学校生活の様子に反映されていないことも見受けられるので行動の伴った生活をしていくようにする必要があります。
- 「自己有用感」については、全国平均を下回っています。難しいことでも失敗を恐れない態度を育てていく必要があります。
- 「生活習慣・学習習慣」については、全国平均を上回っています。自分で学習の計画を立て、日々取り組むことができている児童が多いからだと思います。

3 まとめ

全体的に学力を向上させていくことが求められます。学校においては、基礎的・基本的な学習を引き続き充実させるとともに、国語科の「書くこと」や理科の「粒子」の領域の向上に努めてまいります。

正答率が高い児童は、以下の質問において肯定的な回答が見られました。

- ・「毎日、同じくらいの時間に就寝・起床している」
- ・「自分で決めたことはやり遂げる」
- ・「家で自分で計画を立てて勉強している」
- ・「もっと簡単にできる方法はないか考えている」
- ・「学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめている」
- ・「公式やきまりのわけを理解するようにしている」
- ・「自分の進め方や考えが町が選っていないか振り返って考える」

家庭や学校での生活・学習習慣と学力に関連があると考えられます。家庭での会話や自己有用感を高め規則正しい生活習慣を身に付けるなど、引き続きご家庭でのご支援をお願いいたします。